

NPO法人 介護サービス非営利団体 ネットワークみやぎ



● 2011 年度総会第 5 回理事会開催報告

5月10日(木)14時からフォレスト仙台501会議室で、理事10人、監事2人の出席で第5回理事会を開催しました。議題は、議決事項2件と報告事項5件について提案・報告をし、全議題について議決・承認をして閉会しました。

- 【議題】
1. 議決事項 ①2012年度総会議案の確定の件、②2012年度年間主要日程の件
 2. 報告事項 ①「情報の公表」調査事業について、②地域密着型サービス外部評価事業について、③租税等の申請手続きの件、④事務局体制について、⑤その他、特定非営利活動促進法改正について

● 2012 年度介護ネットみやぎ年間計画

	理事会	実務担当者 会議	情報の公表 事業推進会議	調査員研修	外部評価 調査員研修	総会
2012年 5月	5月10日(木) 第5回	5月17日(木) 第1回	5月30日(水) 第3回			
6月	6月14日(木) 第1回			6月28日(木) 第1回		6月14日(木) 総会
7月		7月11日(水) 第2回			第1回	
8月						
9月		9月13日(木) 第3回		9月6日(木) 第2回		
10月	10月11日(木) 第2回				第2回	
11月		11月15日(木) 第4回	11月7日(水) 第1回	11月8日(木) 第3回		
12月	12月6日(木) 第3回			第4回 (施設見学)		
2013年 1月						
2月		2月14日(木) 第5回		2月7日(木) 第5回		
3月	3月7日(木) 第4回		3月13日(水) 第2回		第3回	
4月						
5月	5月16日(木) 第5回					
6月	6月13日(木) 第1回 *仮					6月13日(木) 総会 *仮

介護ネットみやぎ参加団体 宮城県生活協同組合連合会・みやぎ生活協同組合・生活協同組合あいコープみやぎ・松島医療生活協同組合・全国労働者共済生活協同組合連合会宮城県本部・みやぎ県南医療生活協同組合・JA宮城中央会・財団法人宮城厚生協会・宮城県高齢者生活協同組合・社会福祉法人仙台ビーナス会・社会福祉法人こが福祉会・社会福祉法人宮城厚生福祉会・特定非営利活動法人ゆうあんどあい・特定非営利活動法人WACまごころサービスみやぎ・特定非営利活動法人ひまわり・特定非営利活動法人ほっとあい・特定非営利活動法人グループゆう・協同組合日専連仙台・宮城県民主医療機関連合会・宮城県労働者福祉協議会・宮城県医連事業協同組合・社会福祉法人みんなの輪

介護ネットみやぎの基本理念

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけでなく、心のケアも念頭においた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護(尊重)、地域住民の福祉向上に資することを目的とします。

● 東日本大震災から一年を経て (全会員団体に原稿を依頼し寄稿いただいたものを掲載いたしました)

【松島医療生活協同組合】
 新年度を迎えて

専務理事 青井 克夫

2011年度は、東日本大震災での深い傷跡を負った状況のスタートでした。医療生協の事業活動は一部縮小しましたが、通常の診療体制に戻り経営も全国からの義捐金支援を受け安定しています。

しかし、大震災から一年余を経過しましたが、被災組合員の中には、生活再建の目途すらない方もおられます。3月11日、「なるせの郷」跡地に献花台を設け、300人を超える人たちで追悼を行いました。

2012年度の目標は、先送りになっているデイサービス「まっしまの郷」の建設と、厳しい診療体制は変わりませんが患者・利用者の要望改善に答えられるように努力します。又、被災者（地）支援活動は、被災者（地）と現地支部に寄り添いながら、日本医療福祉生協連合会や全日本民医連の援助・協力もいただき継続します。

原発事故問題も深刻です。東京電力福島第一原発事故の放射能被害は、宮城県でも深刻な影響が出ています。女川原発も、危機一髪で事故から免れたとの事であり、福島原発事故解明がされないまま原発が再稼働されようとしています。「女川原発の再稼働を許さない」脱原発署名を進めると共に、「安心して暮らせるまちづくり」運動の推進に全力を挙げて行きます。



「まっしまの郷」建設の今後の見通しについて、2月理事会で「土地交換の遅れもあり予定の松島町高城での建設を断念し、松島海岸診療所付近での建設に切り替える」ことを確認しました。その後、建設委員会で候補地の検討や交渉を行ってきました。現在、候補地の地主さんから快諾が得られ、土地購入の交渉に入っています。5月中旬ごろまでに確定できるように、作業を進めています。



【社会福祉法人宮城厚生福祉会】
 一大震災から1年を経て

居宅介護支援宮城野の里 土谷 ちはる

あの長い長い大きな地震に耐え、「宮城野の里」は玄関外に陥没が見られたものの、建物自体には被害はなく、震災後の3月18日から5月末日まで、通常の避難所で生活することが困難な認知症の方などのために、全国からの支援を頂きながら福祉避難所を開設しました。私たちの施設は海岸から5、6km、津波被害の大きかった蒲生、岡田地区は目と鼻の先にあります。地域には津波被害で自宅に住めなくなった方がたくさんおられました。

避難所から皆さんが新しい生活に踏み出された後も、地域包括支援センターを中心に各事業所持ち回りで、地域5ヶ所の仮設住宅を訪問しての「茶話会」等を通して支援活動を続けて参りました。現在も継続中です。

9月には「宮城野の里まつり」で、「絆」を忘れずに復興へ共に歩んでいこうと心をついにしました。

先日4月8日は福祉避難所、通称「マルフク」1周年のつどい、「元気になる会」を開催しました。避難所におられた方、全国から支援に駆けつけてくれた方、地域の方、宮城野の里職員など約80名が参加しそれぞれの思いを語り合いました。

復興への歩みの歩幅はそれぞれ置かれた立場で大きく違います。私たちはいつでもどんな時でも一番困難な状況にいる人たちに寄り添っていたい、と考えています。まだまだ時間がかかるとは思いますが、息の長い支援を職員みんなで取り組んでいこうと思います。

最後になりますが、宮城野の里隣地に念願の特養建設が進んでいることも合わせてご報告致します。

【社会福祉法人 仙台ビーナス会】

難局を「東風解凍」の信念で切り開こう

理事長 高橋 治

古くから「天牢雪獄」の土地といわれた岩手沢内は、村民上げて克雪、利雪に成功し、現在言われるような保健、医療、福祉、在宅の包括的な改善に成功したことで知られています。

今、私たちをめぐる社会、経済情勢は極めて厳しい。「社会保障と税の一体改革」の論議も、消費税の引き上げだけが聞こえてきて社会保障の改革は改悪ばかりが見えてきます。この四月から介護報酬の改訂が実施され、高齢者への介護保険や利用料は引き上げられ事業者への介護報酬は引き下げられるという最悪の結果になってしまいました。

今後の高齢者の増大に対して、厚労省は施設サービスから在宅サービスを充実するという事で「地域包括ケアシステム」を構築するとしています。この理念である医療、介護、予防、生活支援、在宅を充実していくということに賛成ですが、問題はそれを実現するための手法です。彼らが言っているように、所詮、「24時間定期・随時介護看護事業所」と「サービス付高齢者住宅」を重点的に整備するだけで達成できるかということです。

仙台ビーナス会は、去年4月に袋原訪問看護事業を開所し、在宅医療のニーズに応えると共に、8月には第二白東苑を開設し待機者の解消に尽力してきました。この4月からは東中田地区包括支援センターのエリアのうち袋原地区を独立して設置される包括センターの運営を新たに受諾して、今までより以上に地域のニーズの集約につとめサービスの充実に奉仕したいと思えます。地域や、利用者のニーズに応えるためには、必要に応じて高齢者が選択できるように施設も居宅サービス事業も整備することが大切だと思います。

仙台ビーナス会は、高浜虚子の句のように法人の理念として決めている「人間の尊厳」この道をこれからも全力で進める決意であります。立春の或るコラムに「東風解凍」とは立春から数日間のことで、ほのかな東風の熱でも、時間をかければ厚い氷さえ溶かすことができるということだと載っていました。たとえ情勢が「天牢雪獄」のように厳しくも、大切なこの使命を全うするために、微力であっても「東風解凍」の信念で努力したいと思えます。

【財団法人宮城厚生協会】

(厚生協会だよりより)

宮城厚生協会の2011年度の事業は、3月11日に発生した東日本大震災によって被災された職員・患者、避難所、仮設住宅はじめ地域の方々への医療支援、生活援助の対策に全力をあげて取り組んできました。震災で損壊した長町病院附属クリニックの解体・再建をはじめ、各病院・事業所の被災の影響を乗り越え、医師を中心に積極的な医療を展開し、目標を大きく超える利益を確保することができ、公益法人認定申請を可能にするなど、経営活動と震災復興の活動で大きく前進しました。

震災復興、原発事故補償は遅々として進まず、被災者の生活再建の展望も開けていません。貧困と格差が拡大する中で、患者の受療を守るために坂総合病院に続き、坂総合クリニック、長町病院、泉病院、古川民主病院での「無料低額診療事業」を拡大しました。

各病院、事業所での地域での医療・介護の提供体制と将来予測、地域住民の生活実態からのポジショニングに応じた対応、「地域包括ケア」構想と一体改革に基づく2025年に向けた、厚生協会としての「中長期的事業・経営戦略」の大枠に基づき、2012年度の事業計画に具体的に反映します。

2012年度は公益法人認定申請を行い、公益財団法人として、民医連事業に相応しい機構や組織の整備を行うと同時に、震災で損壊した長町病院附属クリニックの新病院建設に取り組みます。

【NPO 法人 WAC まごころサービスみやぎ】

新しい保育園へ

理事長 横濱 敬子

4月の半ば保育園が引越しをしました。建物は新築ビルの2階、1階は調剤薬局、3階・4階は医院、5階・6階は介護支援センターという医療福祉ビルです。目の前は国道4号線、車がひっきりなしに行き交い子供達の大好きな救急車や消防自動車も通ります。バルコニーに出ると子供達は柵に掴まり行き交う車に釘付け。以前より広がった保育室では裸足で走り回ります。

今から丁度10年前の4月、「WACまごころ保育園」は開園しました。WACではそのころ一番ヶ瀬会長が“三世代子育て支援”を推奨していて、ジジババ世代が次世代の子や孫を育てていこう、子育ては楽しいものなのだけれど大変でもある、その大変なところを少しでも支援しながら次世代に貢献しようという動きでした。時代は少子高齢社会、育児に悩む若い親、保育園に入れずやむなく待機している子などが沢山いて高齢者の介護と同じくらい子育てに関する問題も深刻でした。当初は子育てサロンと一時保育中心で運営しましたがその年の秋、仙台市の調査が入り指導を受けた結果、その場所では運営不可能と分かりました。翌年の春、子育て支援を安定的に進めるには保育園としての機能に絞った方が良いということになり、ほど近い場所で南向き、幅広い舗道に面していて1階という好立地の場所を見つけ、運営を開始しました。

テナントとして借りたビルは、築30年、オフィスビルなので湯沸し場を調理室に改造はしましたが、狭く老朽化しているため水周りでトラブったりして、決して保育園に向いているとは言えないまま資金面のこともあり、「せんだい保育室」の申請を続け、3年後ようやく認定を受けることができました。

それから4年後、地域密着で活動して20年、この地区で医療福祉ビルを建設するという話しが持ち上がり、その中に保育園もということだったので、老朽化しているビルでは子供達の安心・安全な保育は難しいと感じていたこともあり、思い切って移転する決心をしました。昨年の大震災で建設が延期されはしたものの7月に着工、この4月に竣工、移転という運びになったのでした。

保育園は今、社会保障と税の一体改革における現役世代支援策の柱として「総合こども園」の創設で揺れています。このためにも施設の充実は欠かせないところ、与えられたこの場所で子供達がのびのびと育てられることを望んでいます。

【株式会社ライフミクス】

大震災から一年を経て

フループ福室総合施設長 山田 誠峰

未曾有の災害から一年がたちました。あの時の、救命しようにも為す術なく、救助したくても近寄れず、救援物資は行き届かずという状況には、皆様方にとりまして大変ご苦労されたことと存じます。差別や偏見をも含め、二次的・三次的な被災により、今なお更なる悲しみが続いておりますが、一刻も早く復興を進めることができるよう、私どもとしても出来るところから取り組んでいく所存です。

当時、私どもフループにおきましては、幸いにして利用者全員が無事であり、建物もほとんど被害はありませんでした。以降、多くの方々から救援の手を差し伸べてもらいながら、「フループ福室」においては高齢者の在宅支援を行うほか、「フループライフガーデン」（介護付有料老人ホーム）にあつては、被災された方々を含め入居を承り、この一年間、地域の復興に取り組んで参りました。

これからも、社是である「感謝」「信頼」「共栄」のもと、地域に根ざした高齢者複合型施設として、全従業員一丸となってサービス向上に取り組んで参る所存です。今後とも、ご指導ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【宮城県高齢者生活協同組合】

はじめての「組合員フェスタ」

～つなごう組合員の輪 深めよう友情と交流 創ろう地域の未来！～ 事務局員 平井 敏之



パネラー：石巻日日新聞取締役報道部長 武内宏之さん、渡波第一仮設団地自治会長 辺見俊一さん（高齢協組合員）、元松島医療生協介護職員 今野和恵さん、デイサービスはまかぜ介護職員 菊地明さん、山形高齢協 吉野文夫さん

東日本大震災から1年、宮城県高齢者生活協同組合では初の試みとなる「組合員フェスタ」を、3月25日（日）被災地石巻市のこ〜ぷ福祉会が運営しているデイサービスセンター「こ〜ぷのお家いしのまき」をお借りして開催しました。被災地での開催に不安もありましたが、無事開催することが出来たのも、震災直後から今まで色々な方々のご支援があればこそと、心より御礼を申し上げます。

当日は、被災地視察のあと、被災された方々の生の声をお届けするパネルディスカッションから始まり、地元石巻の方々が用意されていた特製弁当の昼食タイムをはさんで演芸大会、ゲーム大会等、気がつけば予定時刻を大幅に過ぎ大盛況のうちに幕を閉じました。組合員、これから組合員になっていただけの方、職員等 160人



演芸大会「南京玉すだれ」

近い方々にお集まりいただきました。

今回のフェスタのテーマは「つなごう組合員の輪」「深めよう友情と交流」「創ろう地域の未来」です。苦しみも喜びも分かち合い、支え支えられながら、これからも組合員、地域の皆様とともに成長してまいりたいと思います。

【みやぎ県南医療生活協同組合】

(みやぎ県南医療生協だよりより)

ディサービスセンターあおぞらが開設してから9年目を迎えようとしています。早く次の介護施設をという要望に答え、第17回総代会で承認を受けた、みやぎ県南医療生協の第2番目のディサービス施設がオープンいたしました。

当初、ディサービスとショートステイが可能な施設を目指しておりましたが、震災の影響で建設費の大幅増となり、やむなくディサービスだけで運営することになりました。家族の介護負担軽減の面で重要なショートステイですが、次の事業構想に持ち越すことになりました。名称は「ディサービスあおぞら槻木」です。営業日は水曜日を除いた週6日間（土・日曜日営業します）、サービス提供時間は9時30分～16時、利用定員は15人です。医療生協として何より地域の皆さま、組合員の皆様と関わりを大切にし、地域に開かれた運営をしていきます。利用者さんが生き生きと過ごすことができるよう、ボランティアなどで施設内外での活動に皆様のお力を貸していただきたいと思います。

また、利用者さんを中心（利用者さん自ら考え決定できる）とした援助を行うために、職員はそれぞれの専門性を向上させ、共同で安心安全の質の高い介護を目指します。



【みやぎ生活協同組合】

生活文化部福祉文化活動事務局統括 高村 敦子

1. 被災者・被災地への支援

- ①「みやぎ生協ボランティアセンター」を県内4カ所に設置し、被災者のニーズを把握したボランティア活動を地域のNPOや社協などとも連携して推進しました。
- ②職員と全国の生協からの支援も受けて、震災で被害のあった「めぐみ野」生産者の復旧を応援するボランティア活動をすすめました。
- ③被災者の心の支援になるようなコンサートなどの文化活動を県内各地で実施しました。
- ④被災した県民、メンバー、めぐみ野生産者の暮らしの再建を応援する「東日本大震災被災者支援募金」を実施し、39,842,756円を集めました。
- ⑤避難所や仮設住宅への商品供給を行いました。
- ⑦学校部では、被災地・被災者の要望に応じて教材等の提供やユニセフと連携した支援活動をすすめました。
- ⑧被災者のこれからの暮らしを支援するために、行政への要請活動や署名活動に取り組みました。

2. 地域の産業の復興を支援する商品事業

- ①「食のみやぎ復興ネットワーク」を結成し、被災地での原材料使用や加工の実施など、地元企業と協力して復興に協力する商品を開発・供給しました。
- ②被災したメーカー・工場の商品の積極的な取り扱いや、地域や全国のメーカーと協力した復興応援商品の開発・供給を行いました。

3. 買物や食生活が厳しくなるメンバーに対しての支援事業

- ①店舗事業では、「ふれあい便」の拡大・「せいきょう便」の運行などで、買い物をすることが大変な方々への支援を行いました。
- ②共同購入事業では、個配手数料の被災者支援サービス・離島での配達・夕食宅配弁当の配達その他、全国の生協の募金で仮設住宅にお住まいの方へ灯油無償提供などを行いました。

4. 「顔とくらしの見える産直」の推進

- ①津波で被害のあった産直生産者への復旧支援を行いました。
- ②生協の産直を他の産直と差異化するために「めぐみ野」を立ち上げ、お知らせをすすめました。
- ③他の団体と協力しながら「TPP交渉に反対する署名」などを行いました。

5. 災害に強い生協作り

- ①災害の際、生協の事業が速やかに再開するための事業継続計画（BCP）を策定し、災害時に必要となるインフラ関係の装備を充実させました。
- ②防災・減災の学習会などを実施しました。
- ③個配メールサービスをより多くの人に広げました。

新会員「社会福祉法人みんなの輪」のご紹介

社会福祉法人みんなの輪が新たに会員に加わりました。
みんなの輪は、平成14年度にあいこーぷみやぎから独立して設立され、「指定障害福祉サービス事業者」として「就労継続支援（B型）・就労移行支援・生活介護・相談支援」を行っています。
今年度からケアグループ木もれびが、あいこーぷみやぎからみんなの輪に事業の移管が行なわれ、それに伴い社会福祉法人みんなの輪が、介護ネットみやぎの会員に加わることになりました。



理 念
障害のあるなしにかかわらず
誰もが安心して暮らせる
地域社会作りをめざして

【社会福祉法人 コーぷ福祉会】

コーぷ福祉会の被災者の支援

こ～ぷのお家桜ヶ丘施設長 佐藤 優子

コーぷ福祉会では被災者支援として、こ～ぷのお家いしのまきの地域交流サロンを会場に近くの仮設住宅の高齢者の方たちと地域のみなさんとボランティアの交流の場として昨年の8月から毎月第2、第4土曜日を基本に”こ～ぷ福祉サロン”「こ～ぷのお家であいましょう」を開催しております。

東北各地の郷土料理や季節感のある馴染みの料理、餅つき機を使ったもちをみんなで作ってみんなで食べることにしています。つくり方について、さまざまな意見も出されるようになって笑顔と大きな声が飛び交うようになりました。これまでに18回開催



し、のべ参加者数は253人、ボランティアは181人です。ボランティアとして松島医療生協からは、毎回2人の方が参加してくださってバイタルチェックをしながらの健康相談、食後の健康体操が定番メニューとなりました。ボランティアはコーぷ福祉会だけではなく、みやぎ生協の本部やシステム部の女性職員、地域の方たちの参加もあって少しずつ地域内で広がりつつあるのもうれしいことです。

10月初めには奈良の協同福祉会の紹介で大和郡山ロータリークラブ主催の金魚すくい大会IN石巻が開催されて、仮設住宅の高齢者や未就学児童など75人が参加、サロンは金魚すくいに歓声と拍手でにぎわいました。また、10月下旬には石巻日々新聞の紹介でつながりができた、鹿児島島のNPO唐芋ワールドセ

ンターのトラックエスペランサ号によるさつまいも2トンの無料配布があり、みやぎ生協と協力して近隣の仮設住宅のみなさんにチラシを配布したり当日のお手伝いをしました。200人を超える人たちが大きな袋をいっぱいにして足取りは軽やかでした。年が明けた2月にも春野菜と柑橘類の無料配布のエスペランサ号を待ち受けて、顔なじみになった方たちもあって旧交を温め合う姿も見受けられました。

これからも月2回、「こ～ぷのお家であいましょう」を開催していく予定です。ボランティアができる方はどうぞお気軽にご参加をお願いいたします。

● 宮城県生活協同組合連合会

日本生協連に寄せられた東日本大震災支援募金第7次分8,232万円を知事に贈呈しました

4月23日に行われた宮城県知事との懇談会で、日本生協連に寄せられた東日本大震災支援募金第7次分8,232万円を知事に贈呈しました。宮城県への募金は、累計で総額10億6,847万2,620円となりました。（日本生協連に寄せられた「東日本大震災支援募金」は、累計24億2,464,620円になります。）



● 宮城県生協連 被災地生協の取り組みを取材した本の紹介

被災地生協の取り組みを取材した単行本2冊が刊行されました。

- ・「誰かのためにできること」（山本明文著）商業界発行 定価1500円（税込）
いわて生協、みやぎ生協、コーぷふくしまの被災地生協を中心に 震災直後からの生協の取り組みが紹介されています。
- ・「悲しみを乗り越えて共に歩もう」（西村一朗著）合同出版発行 定価1396円（税込）
組合員、職員同士の協力、地域全体での関係づくり、「食のみやぎ復興ネットワーク」など復興に全力をあげて取り組むみやぎ生協の様子が語られています。

● 2011 年度第 5 回「情報の公表」調査員研修報告

2012 年 3 月 29 日（木）10 時 30 分から仙台ガーデンパレス（3F 羽衣の間）において、33 人の出席で開催しました。

午前の部では、渡辺礼子さん（向上検討委員長）から 2011 年度の調査を振り返って、介護ネットみやぎの基本理念と倫理規定の確認と、これまでの調査報告書を読んで注意すべき点などの説明がありました。

次に蕪武昌春さん（事業推進委員）から地域包括ケアシステムについて、取り組み内容やしくみなど、佃十尚さん（事業推進委員）からは社会保障制度と税の一体改革について、「一体改革」にこめた狙いは何か？と、社会保障を中心にすえた国づくりの学習をしました。

続いて、入間田事務局長が 2012 年度情報の公表の概要について、介護サービス情報の公表制度見直しの内容などの報告をしました。

午後からは、1 年間の調査を振り返って調査員一人ずつ感想を述べていただき、感心したことや気づいたことなどいろいろな思いを聞くことが出来る良い機会となりました。



向上委員長の渡辺礼子さん



講師の蕪武昌春さん



講師の佃十尚さん

● 2012 年度第 1 回「情報の公表」調査実務向上検討委員会開催

4 月 25 日（水）9 時 30 分から 10 時 30 分まで、介護ネットみやぎ事務所において 6 人の出席で開催し、第 1 回の調査員研修 6 月 28 日（木）の内容や、今年度の研修計画を検討しました。

総会のご案内

場 所：フォレスト仙台 2F 第 7 会議室

日 時：2012 年 6 月 14 日（木）

第一部 総 会 13：30～14：30

第二部 記念講演 14：40～15：50

「介護報酬改訂を問う

…これで良いのか在宅介護？」

講師 日下部 雅喜さん

（大阪社保協介護保険対策委員）

第三者委員拡大研修会のご案内

場 所：フォレスト仙台 5F 501 会議室

研修日時：2012 年 7 月 11 日（水）

14：30～16：00

演 題

－医療行為の問題から紐解く介護の未来－

講師 篠崎良勝さん

（八戸大学人間健康学部人間健康学科准教授）